



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル(表の枠)の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

実践団体の基本情報

| | |
|--|--|
| 記入日 | 西暦 2025 年 1 月 13 日 (2025 年度のチャレンジプラン) |
| プラン名 | 遊びを通した保育ぼうさい～乳幼児期からの生きる力を育むカリキュラム開発～ |
| 実践団体名 | 社会福祉法人地球の園 こひつじこども園 |
| 代表者名 | 理事長・園長 山尾聖修 |
| 電話番号 | 072-291-3222 |
| メールアドレス | kanadenonaka@gmail.com |
| 実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください | こひつじこども園は、1971年に設立された定員140名の認定こども園です。「神と人とを愛し、愛される子どもに育てる」を理念に、キリスト教精神に基づいた保育を行っています。少人数縦割り保育の中で、一人一人の個性を尊重し、自律的に生きる力を育むことを大切にしています。また本園では、こどもたちがその日の活動を自由に選択する7つのセンター活動、カフェテリア形式での食事、異年齢児保育などを通して、こどもの主体性や創造性を育む保育・教育を実践しています。現在は143名の園児を46名の職員が家庭的な保育環境のもとで受け入れています。 |
| 所属メンバー お名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください | (担当) 保育教諭 野中奏 |
| 活動の本拠地 団体の事務所の所在地や居住地など記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。 | 大阪府堺市南区 |
| 活動開始時期・結成時期 | 2024年4月～ |
| 過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴(チャレンジプラン以外も含む)をご記入ください | なし |

プランの基本情報

| | |
|-----------------------------|--|
| プランでの実践主体 プランを実践した人の主な属性 | 1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA、 4. 地域組織 5. 国・地方公共団体 6. 公共施設、 |
|-----------------------------|--|



| | |
|---|---|
| <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p> | <p>7. 企業・産業関係 8. ボランティア 9. NPO</p> |
| <p>プランの運営側の人数（実数）</p> | <p>約 30 人</p> |
| <p>プランの活動地域</p> <p>今回のプランで活動をした地域を記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。オンラインによる全国発信・世界発信などがある場合には、その旨も書いてください。</p> | <p>大阪府堺市南区</p> |
| <p>プランの防災教育の対象者</p> <p>防災教育の対象者の主な属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p> | <p>1. 乳児 2. 幼児・保育園児・幼稚園児 3. 小学生（低学年） 8. 大学生 11. 保護者・PTA 12. 地域住民 13. 企業・組織</p> |
| <p>防災教育の対象者の人数（実数）</p> | <p>約 200 人</p> |
| <p>プランが対象とする災害</p> <p>プランが対象とする災害</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p> | <p>1. 地震 2. 津波 8. 火災</p> |
| <p>プランの活動目的</p> <p>プランの主な活動目的</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p> | <p>1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 6. 災害に強い地域をつくる 9. 防災に関する技術の習得</p> |
| <p>対象者が身につく知識・技能等</p> <p>プランの対象者が身につけることができる知識・技能等</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p> | <p>1. 地震・津波・火山災害 3. 災害時に発生する課題・影響 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動</p> |
| <p>プランの活動形態</p> <p>プランの主な活動形態</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p> | <p>1. イベント・行事 13. 避難・防災訓練 15. 読書・絵本・読み聞かせ 17. その他（具体的に：日常の遊びや保育活動の中での取</p> |



| | |
|---|---|
| | り組み) |
| <p>プランでの連携先</p> <p>プランで連携した相手の属性 複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</p> | <p>1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA</p> <p>8. 国・地方公共団体 10. 企業・産業関係</p> <p>11. ボランティア 12. NPO</p> |
| <p>実践にかかった金額</p> <p>チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください 具体的金額を記入するか、選択肢から該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</p> | 50万円未満 |

プランの年間活動記録

| | プランの立案と調整 | 活動準備 | 実践活動 |
|----|--|---|---|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・こども防災デー(9月)の企画チーム設立 ・防災遊びの実施 ・避難訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの作成 ・保護者への説明文書配布 ・DWAT等協力団体との打ち合わせ ・年間カリキュラム案作成 ・大阪総合保育大学との連携開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者向け職員研修の実施 ・保育者の事前アンケート・保護者の同意書取得 ・実践前クラス・実践済みクラスの子どもの姿の比較 ・園内防災探検、防災ゲームの実施 |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災遊びの実施 ・避難訓練 ・防災センター訪問(4歳児クラス) | <ul style="list-style-type: none"> ・かまどベンチの設計 ・防災センター打合せ ・防災に関する絵本や紙芝居の購入 | <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児クラスかまどベンチの導入 ・防災センター訪問 ・防災センターの振り返り・絵画活動の実施 |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災遊びの実施 ・避難訓練 ・消防訓練 ・かまどベンチの作成開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学生との初回協議 ・肯定的な避難の約束作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・光・暗闇体験の実施 ・危険探しゲームの実施 ・かまどベンチ制作開始(5歳児) |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災遊びの実施 ・避難訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルキャラクターまもるSUNの作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ランタン作りの実施・防災ラジオ、ニュースの視聴・不 |



| | | | |
|-----|--|--|--|
| | | | 審者訓練 DE かくれんぼの実施 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災遊びの実施 ・避難訓練 ・かまどベンチの仕上げ | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもぼうさいデー最終準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・手回し懐中電灯、ラジオの体験・防災グッズ探しの実施 ・かまどベンチの仕上げ作業 |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもぼうさいデー ・防災遊びの実施 ・避難訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・協力団体との最終打ち合わせ ・会場設営、資材準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもぼうさいデー ・参加者アンケート実施 ・各種防災体験コーナーの運営 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会での防災サーキットの実施 ・防災遊びの実施 ・避難訓練 ・かまどベンチを使った調理体験 | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもぼうさいデーの振り返り ・参加者アンケートの集計・分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災サーキット(忍者修行)の発表 ・かまどベンチを使った調理体験 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂での防災 ・防災遊びの実施 ・避難訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂との連携準備 ・地域向け防災講座の企画 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂での防災イベント実施 ・地域住民との交流 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯を使った影絵シアター発表 ・防災遊びの実施 ・避難訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・影絵シアターの準備 ・保護者向け発表会の企画 | <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯を使った影絵シアター発表 ・保護者への公開 ・1年間の振り返り活動 |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・かまどベンチを使った炊き出し訓練の実施 ・防災遊びの実施 ・避難訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し訓練の準備・最終報告書作成開始 ・成果のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し訓練の実施(子ども・保護者・地域参加) ・保育者・保護者の事後アンケート実施 |
| 2月 | | | |
| 3月 | | | |



実践したプランの内容

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

プラン全体の概要

どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。

写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。

本プランは、乳幼児期における遊びを通じた防災教育の体系化を目的とし、2～5歳児約100名を対象に実践を行った。従来の形式的な避難訓練や大人主導の防災教育から脱却し、日常の保育活動の中に防災要素を自然に組み込むことで、子どもたちが楽しみながら命を守る行動を習得できるカリキュラムの開発に取り組んだ。

月2～3回、懐中電灯遊び、光・暗闇体験、影遊び、防災グッズ探し、危険探しゲーム、防災探検、動物なりきり遊びなど、「訓練」ではなく「遊び」として防災要素を取り入れた活動を実施した。また、肯定的な表現で命を守る行動を伝えるオリジナルキャラクター「まもるSUN」を作成し、避難訓練の合言葉も否定形から「じ・ぶ・ん・を・ま・も・る」という肯定的表現に変更した。

さらに、9月には園と地域・家庭の防災力向上を目指し、消防・自衛隊・DWAT・区役所など多様な機関と連携した「こどもぼうさいデー」を開催し、子ども102名、大人164名の計266名が参加した。参加者アンケートでは満足度100%、防災への関心が「非常に高まった」「やや高まった」が100%という結果が得られ、子どもと防災について話す機会が「増える」と回答した保護者が84.4%に達した。





| | |
|---|---|
| <p>プランの「チャレンジ」の結果</p> <p>プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p> | <p>本プランにおける最大のチャレンジは、乳幼児期における防災の取り組みを「訓練」という形式から「遊び」へと転換することである。従来の防災教育は「○○してはいけない」という否定的な指示や、恐怖心を喚起する方法が中心であったが、本プランでは乳幼児期の子どもたちの発達特性を踏まえ、遊びを通して自然に防災行動が身につく方法論の確立に挑戦した。</p> <p>その結果、子どもたちは防災のためではなく、忍者になるための修行として、自ら楽しんで活動に取り組む姿が見られた。防災センター訪問後の振り返りでは、「煙のやつ楽しかった」「地震楽しかった」という発言とともに、「手で押さえる!口と鼻を押さえる!」「煙を吸っちゃうから!」と、体験を通して理由まで含めて理解している様子が確認できた。また、2歳児が自由遊びの中で自発的に避難訓練の合言葉を思い出そうとする姿も観察され、日常の遊びと防災が自然に結びついていることが示された。</p> <p>さらに、オリジナルキャラクター「まもる SUN」の導入により、子どもたちは親しみを持って防災に関わるようになり、保護者からも「家庭でも防災について話すきっかけになった」という声が多く寄せられた。遊びを通した防災教育が、園内だけでなく家庭や地域へと広がる可能性を実証できたことは、本プランの大きな成果である。</p> |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>実践内容・方法・成果</p> <p>これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。</p> <p>このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。</p> <p>実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。</p> | <p>1. 日常の保育活動における防災遊びの実践</p> <p><u>実践内容</u></p> <p>月2～3回の頻度で、日常の保育活動の中に防災要素を組み込んだ遊びを実施した。これらの活動は「訓練」ではなく「遊び」として位置づけ、子どもたちが楽しみながら自然に命を守る行動を習得できるよう工夫した。</p> <p><u>具体的な活動内容</u></p> <ul style="list-style-type: none">・懐中電灯遊び・光と暗闇体験（6月、12月）：停電時を |
|--|--|



想定し、暗闇の中で懐中電灯を使う体験を実施。12月には保護者向けに懐中電灯を使った影絵シアター発表を行い、遊びの成果を共有した。

・防災グッズ探し（8月）：手回し懐中電灯、防災ラジオなど実際の防災グッズに触れ、使い方を体験した。

・危険探しゲーム（6月）：園内を探検し、地震や火災時に危険な場所を見つける活動。子どもたち自身が主体的に安全と危険を考える機会となった。

・園内ぼうさい探検（4月）：園内の安全な場所、避難経路を子どもたちと一緒に確認した。

・ランタン作り（7月）：停電時に使える明かりを自分たちで制作した。

・防災ラジオ・ニュースの視聴（7月）：災害時の情報収集手段として、ラジオに親しむ活動を実施した。

方法の工夫

活動記録シートを作成し、各活動のねらい、子どもの様子、次回への改善点を記録する仕組みを整えた。また、避難訓練チェックリストにより、訓練時の子どもの姿を初期対応、避難行動、協力・助け合い、主体性・判断力の4カテゴリーで5段階評価し、個々の成長を可視化した。

成果

2歳児が自由遊びの中で「避難訓練の合言葉って何だっけ?」と自発的に思い出そうとする姿が見られた。また、日常の遊びの中で防災に関連する言葉や行動が自然に出てくるようになり、特別な「訓練」としてではなく、生活の一部として防災意識が育っていることが確認できた。

2. オリジナルキャラクター「まもる SUN」と肯定的避難標語の開発

実践内容



従来の避難訓練では「○○しない」という否定的な表現が多く使われており、2歳児が自由遊びの際に否定形の言葉に引っ張られて混乱する様子が観察された。この課題を解決するため、7月にオリジナルキャラクター「まもる SUN」を作成し、避難訓練の合言葉を肯定的な表現に変更した。

具体的な取り組み

キャラクター「まもる SUN」のデザイン制作

避難訓練の合言葉を「じ・ぶ・ん・を・ま・も・る」に統一した。

方法の工夫

子どもたちが親しみやすいキャラクターデザインにし、園内の掲示物や配布物に活用した。また、保護者にも「まもる SUN」を紹介し、家庭でも防災について話すきっかけとなるよう工夫した。

成果

否定形ではなく肯定形で伝えることで、子どもたちが「何をするか」を明確に理解できるようになった。「まもる SUN」というキャラクターを通して、子どもたちは防災を「怖いもの」ではなく「自分を守るための大切なこと」として受け止めるようになった。保護者からも「家で子どもが『まもる SUN』の話をしている」という報告があり、家庭での防災意識向上にもつながった。

3. こどもぼうさいデーの開催

実践内容

9月13日(土)に、園と地域・家庭の防災力向上を目指した「こどもぼうさいデー」を開催した。消防、自衛隊、DWAT(災害派遣福祉チーム)、堺市南区役所、日本損害保険協会、地域団体など多様な機関と連携し、子ども102名、大人164名の計266名が参加する大規模なイベント



となった。

具体的なコーナー内容

消防・自衛隊コーナー、避難所体験コーナー、トイレコーナー、防災ゲームコーナー、かまどベンチでの炊き出し訓練、防災アート、ぼうさいダックとワークショップ、防災絵本読み聞かせ、ぼうさい NURIE、防災講座、災害食試食、防災用品展示、おもちゃ AED

方法の工夫

土曜日に開催することで、保護者や地域住民が参加しやすい環境を整えた。また、各コーナーでは体験型の活動を重視し、見るだけでなく実際に触れて学べる工夫を施した。さらに、放課後等デイサービスこひつじや大阪総合保育大学との共催により、多様な参加者が交流できる場となった。

成果

参加者アンケート（回答数 154 名、回収率 95.7%）では、満足度が「非常に満足」82.5%、「やや満足」17.5%で、満足度 100%を達成した。防災への関心は、参加前に「非常に高い」「やや高い」が合わせて 41.5%だったのに対し、参加後は「非常に高まった」51.3%、「やや高まった」48.7%で、全参加者の防災意識が向上した。また、子どもと防災について話す機会が「とても増える」「やや増える」と回答した保護者が 84.4%に達し、家庭での防災教育のきっかけとなった。防災について学ぶ際に重要だと思うことでは、「楽しみながら学ぶこと」（116 名）、「実際に体験すること」（110 名）が上位を占め、本プランの方向性が参加者のニーズと一致していることが確認できた。

4. 堺市総合防災センター訪問（4 歳児クラス）

実践内容

5 月に 4 歳児クラス 32 名が堺市総合防災センターを訪問



し、消火体験、煙避難体験、地震体験（震度 5 弱）、防災アニメ視聴、訓練見学、車両見学などを体験した。

方法の工夫

訪問後には、子どもたちの振り返りの時間を設け、何を感じたか、何を学んだかを言葉にする機会を作った。また、絵画活動を通して体験を表現する時間も設けた。この取り組みが評価され、見学報告書が堺市総合防災センターの広報誌に掲載された。

成果

振り返りの中で、子どもたちは「煙のやつ楽しかった」「地震楽しかった」という感想とともに、「手で押さえる!口と鼻を押さえる!」「煙を吸っちゃうから!」と、行動とその理由をセットで理解している様子が見られた。また、「だんごむしのポーズ」を「簡単!」と答えつつ、「震度 5 弱だから結構揺れた」と体験を体感的に学習していた。4 歳児ながら「津波」「119 番」などの専門用語を使用し、「火事だー!」と大声で通報する練習では、集団で声を合わせることで学習効果が高まった。「消火器は使わない」という発言からは、大人と子どもの役割区別を理解し、年齢に応じた適切な役割認識が育っていることが確認できた。

「楽しかった!」「怖かった!」という素直な感情表現が、学習内容とセットで記憶され、深い学びにつながっている様子が観察された。

5. かまどベンチの制作と炊き出し訓練

実践内容

災害時に実際に使用できるかまどベンチを、5 歳児クラスと保護者が協力して制作した。6 月に設計を開始し、8 月に仕上げを行い、9 月のこどもぼうさいデーで実演を行った。その後、10 月には調理体験、1 月には炊き出し訓練を実施した。



方法の工夫

保護者の協力を得て、本格的な設備を制作した。子どもたちも制作過程に参加することで、自分たちが作ったものという意識を持ち、防災への関心が高まった。

成果

完成したかまどベンチは、保護者や地域住民にも災害時の炊き出しの重要性を実感してもらう機会となった。5歳児クラスの子どもたちは、自分たちが作ったベンチで実際に調理する体験を通して、防災が「もしもの時」だけでなく、日常とつながっていることを学んだ。

6. 運動会での防災サーキットの実施

実践内容

4歳児クラスが半年間かけて「忍者からのミッション」をテーマにした防災サーキットに取り組んだ。壁押し of 術、バランスの術、飛び石の術、回転の術、忍び歩きの術、飛び降りの術など、遊びの中に防災の要素を自然に組み込んだ。

方法の工夫

防災のための訓練としてではなく、忍者になるための修行として設定することで、子どもたちが楽しく主体的に取り組めるようにした。運動会での発表により、保護者にも遊びを通した学びを発信する機会とした。

成果

子どもたちは防災を意識することなく、忍者修行として楽しく活動に取り組みながら、結果的に避難時に必要な身体動作や判断力を身につけることができた。運動会での発表を通して、保護者にも「遊びを通した防災教育」の意義が伝わり、家庭での理解が深まった。

7. その他の取り組み



| | |
|--|---|
| | <p><u>小学校までの戸外散歩（5月）</u> 実際の避難経路を想定し、小学校まで歩く体験を実施した。</p> <p><u>子ども食堂での防災（11月）</u> 地域の子ども食堂の機会を活用し、防災の取り組みを地域に広げた。</p> |
|--|---|

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

| | |
|--|--|
| <p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした</p> | <p>初めての取り組みだったこと、もともと防災への意識が高い園ではなかったことから、職員の心理的なハードルを下げるために、ある程度は担当で細部まで決めてから職員に共有するようにしました。次年度以降は、もっと役割分担をできたらと思っています。</p> |
| <p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした</p> | <p>まずはDWA T・消防・自衛隊と連携してから自治体にも連携をお願いしました。</p> |
| <p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った</p> | <p>職員会議を活用したり、園内の行事として保護者にも協力を依頼することによって、自分たちごととしてとらえられるように段階的に組織としての意識付けを行っていきました。</p> |
| <p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した</p> | <p>当初は、園児とその保護者に限定していましたが、保護者や地域の方の呼びかけや職員のつながりで対象が拡大していきました。ニーズに応じた活動の展開を心掛けました。</p> |
| <p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた</p> | <p>外部の方との打ち合わせは必要に応じてオンラインなども活用しました。</p> |
| <p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保</u></p> | <p>日ごろから使用している場所で防災の取り組みを行うこと</p> |



| | |
|--|---|
| <p>する際の工夫 例：公民館などを無料で使用した</p> | <p>が、参加者の意識が高まると考え、すべて園内の施設を使用しました。</p> |
| <p>7.【準備段階】<u>活動資金を確保</u> する際の工夫 例：自治体の助成金に応募した</p> | |
| <p>8.【準備段階】<u>知識や情報を収集</u>する際の工夫 例：専門家による勉強会を開いた</p> | <p>様々な専門性をもった団体に協力をしてもらいました。また、かまどベンチの作成は、専門職の保護者の方に協力していただき、本格的な設備を作成することができました。</p> |
| <p>9.【準備段階】<u>教育・訓練プログラムや教材を作成</u>する際の工夫 例：webサイトを引用した</p> | <p>保育実践を体系化していくために、客観的な指標が必要だと思い評価シートを作成しました。連携先である大学の先生方からも助言を受けました。</p> |
| <p>10.【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保</u>する際の工夫 例：実行委員に助言を求めた</p> | |
| <p>11.【実行段階】<u>地域の理解を得て関係機関と連携</u>する際の工夫 例：行政・自治会等と共催した</p> | <p>連携をお願いする際は、子どもの防災の必要性について互いに協議し、イベント設計への方向性を明確にしました。</p> |
| <p>12.【実行段階】<u>活動時間を確保</u>する際の工夫 例：総合学習の時間に実施した</p> | <p>こども防災デーは、土曜日に実施することで、多くの参加者が参加できました。</p> |
| <p>13.【実行段階】<u>活動経費をなるべく抑える</u>際の工夫 例：必要物品を消防署から借りた</p> | <p>必要物品を消防署や自衛隊、DWA Tからお借りしたり、各協力団体からの協賛などを多くいただきました。</p> |
| <p>14.【実行段階】<u>他の実践団体と交流</u>する際の工夫 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p> | |
| <p>15.【継続段階】<u>後任者を育成</u>する際の工夫</p> | |



| | |
|---|--------------------------------|
| 例：若手を入れた | |
| 16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った | |
| 17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：web サイトで発信した | |
| 18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した | 振り返りや、参加者アンケートの分析、共有の機会を作りました。 |

| | |
|---|---|
| <p>今後の活動予定・今後の展開</p> <p>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p> | <p>本プランで開発した「遊びを通した保育ぼうさい」カリキュラムは、子どもたちが楽しみながら防災知識を深め、理由まで理解して行動できる効果が確認された。今後は以下の3つの方向性で取り組みを継続・発展させていく。</p> <p>1. 組織的な定着と継続</p> <p>本実践で開発したカリキュラムを園全体で組織的に実践し、担当者個人の実践から園の「文化」として定着させる。全職員による評価シートの活用、職員研修(年2回)、実践検討会(月1回)での組織的なPDCAサイクルを確立する。</p> <p>2. カリキュラムの深化と発展</p> <p>子ども主体の避難訓練の導入、かまどベンチを活用した月1回の炊き出し訓練、ビオトープを活用した水害学習など、より発展的な実践を導入し、形式的な訓練からの脱却を図る。</p> <p>3. 成果の「実践パッケージ」化と普及</p> <p>本プランの成果を年間カリキュラム案、オリジナル教材「じぶんをまもる」、活動・評価シート、導入マニュアルを含む「保育ぼうさい実践パッケージ」として体系化する。</p> |
|---|---|



この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

| | |
|--|---|
| <p>その他（PRポイントなど）</p> <p>これまでのセルで書けなかった内容などについてもしあれば記載してください。</p> | <p>本プランの特徴は、防災を「大人が教えるもの」ではなく「子どもが遊びの中で自然に学ぶもの」として位置づけた点にある。特に、4歳児クラスの「忍者からのミッション」では、子どもたちは防災のためではなく忍者になるための修行として楽しく取り組みながら、結果的に避難時に必要な身体動作や判断力を身につけることができた。運動会での発表を通して、保護者にも「遊びを通した防災教育」の意義が伝わり、家庭での理解が深まった。</p> <p>また、本園は1971年の設立以来、「神と人とを愛し、愛される子どもに育てる」という理念のもと、キリスト教精神に基づいた保育を50年以上継承してきた。防災教育も、この「命を慈しむ」精神と深く結びついている。オリジナルキャラクター「まもるSUN」の「まもる」という名前には、自分の命だけでなく、友だちや家族の命も大切にするという願いが込められており、園の理念と防災教育が自然に融合した形となっている。</p> |
|--|---|

チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

この項目は審査対象になりません。

任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。

| | |
|---|---|
| <p>チャレンジプランを実践しての感想・想い</p> <p>チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。</p> | <p>防災教育チャレンジプランに応募した当初は、「遊びを通した防災教育」という漠然としたアイデアを形にできるだろうかという不安がありました。しかし、1年間の実践を通して、子どもたちの姿が私の想像をはるかに超える形で、その可能性を証明してくれました。</p> <p>最も印象的だったのは、2歳児が自由遊びの中で「避難訓練の合言葉って何だっけ?」と自発的に思い出そうとしていた場面です。防災が「訓練」という特別な時間だけのものではなく、子どもたちの日常の中に自然に溶け込んでいることを実感した瞬間でした。また、4歳児クラスの防災セ</p> |
|---|---|



ンター訪問後の振り返りでは、「煙を吸っちゃうから!」と行動の理由まで理解している子どもたちの姿に、体験を通じた学びの深さを目の当たりにしました。

「こどもぼうさいデー」の開催は、本園にとって大きなチャレンジでした。消防、自衛隊、DWAT、大学、行政、民間団体など、多様な機関との連携調整は想像以上に大変でしたが、当日、266名の参加者全員が満足し、防災意識が100%向上したという結果は、その苦労を大きく上回る喜びとなりました。特に、参加した保護者から「家で子どもが『まもるSUN』の話をしている」「避難訓練ごっこをして遊んでいる」という声を聞いたときは、防災教育が家庭にまで広がっていることを実感し、この取り組みの意義を改めて感じました。

一方で、中間報告会でも報告した「職員間の温度差」という課題は、私自身が向き合わなければならない大きな壁でした。担当者個人の熱意だけでは、持続可能な実践にはならない。園全体の文化として定着させるためには、全職員が同じ目標を共有し、組織的に取り組む体制が必要だと痛感しました。この課題は2026年度の継続実践での最重要テーマとなっています。

また、全国375名の保育者を対象とした調査を通して、私が感じていた「防災教育への苦手意識」は個人的な悩みではなく、保育界全体が抱える構造的な課題であることが明らかになりました。7割以上の保育者が「アイデア不足」に悩んでいるという事実は、私たちの実践を「自分たちだけのもの」で終わらせてはいけないという使命感を強くしました。2026年度に「実践パッケージ」として体系化し、全国の保育現場に届けることが、私たちの責任だと考えています。

この1年間、防災教育チャレンジプランの支援を受けて実践できたことは、保育者としての私自身の大きな成長にも



つながりました。専門家の先生方からの助言、中間報告会での他の実践団体との交流、そして何より子どもたちの生き生きとした姿が、私に「防災教育は難しいものではなく、子どもたちの生きる力を育む保育そのものだ」という確信を与えてくれました。

この実践の灯火を消すことなく、園の文化として定着させ、全国の保育現場に希望を届けられるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。